

英國の自然と人間

在英國 教授 戸澤 正 保

(下) 人間

○前回に於て英國の自然に就て所感を述べたから、今回は人物に就て所見を述べる積りで、さて紙に臨んだが、前回と今回との間には約三ヶ月の間隔があるので、文体も何も忘れて仕舞つた。そこで少々たかしい様だが、此度は前回と關係なしの文体で、かういふ風に書いて見ることにした。これは近頃流行の文体で、至極面白い書き方であるから、學生諸君などは避けた方が宜からうと思ふ。

○先づこちらへ來て直ぐ目に附くことは、人間の肉体だ、これは日本に居た時から百も承知の事實なのだが、それでも今更の様に立派に感ぜられる、そして我等日本人の肉体が如何にも見すばらしく感ぜられる。

○色は白い、鼻は高い、丈は高い、肉附もよい、そして姿勢がよくて、態度が鷹揚だ、此等の事實は、何もワザ／＼ロンドンまで來て報告に及ぶにも當らない様だが、それでも一度は云はなければ氣が濟まない、事程左様に凡ての新來者が強く感ずる所であるのだ。

○これは云ふ迄もなく人種の差で、人力では如何とも仕様がない、白熊が白く赤熊が赤いを如何とも仕様がないと同じ事だ、寧ろこれは醜は醜なりに、之を天から與へられた己れの特長として誇るべきだ。少くとも其方がフィロソフィカルだ。

○先日天長節の夜は、大使から在倫敦の日本人を招待して、簡単な夜會を催して、陛下の萬歳を三唱した、

其時は約百人程の日本人が一同燕尾服で集つた、數人の婦人もあつた、これも皆な英國式の肌ぬき腕まくりの、醜肉曝露式の禮服で來られた。

○これが日本で見たら、何れも鼻持ちのならぬ程のハイカラ扮装で集つたのだが、さて見亘した處、其ハイカラが薩張り効力がない、平生西洋人ばかり見て居た目で此日本人村へ來て見ると、我同胞はかうも醜い肉体を有して居るかと少々愛想が盡きる様な感じがする。

○序ながら、西洋人の服裝と日本人の服裝とは、凡て此美と醜とを根本として割出されてあるやうに思はれる、西洋人の服裝は、何でも肉体の美を常識の許す範圍内に於て、曝露しやう／＼と力めて居るので、日本人のは、肉体の醜を包まう／＼と力めて居る様に感ぜられる、婦人の服に於て殊に然りである。

○かういう次第で、在歐の日本人は先づ初めは肉体の点に於て大に失望し煩悶するらしい、而して後に到達する結論は、肉体が何だ、肉体は精神の容器に過ぎない、丈夫で役に立ちさへすればよいのだ、容器の美しい方がよいのは、進物の場合ばかりだ、砂糖一斤の進物でも、大きな立派な箱に入れたのは、羊羹數本を竹の皮に包んだのよりも押出しがよい、併し我等は進物ではないぞ、竹の皮包の羊羹だぞ。

○これが在歐日本人一同が最後に到達する負惜みの結論である、一口に負惜みといふ。併し、負惜みといふ奴は畢竟するに人間最後の哲學だ、我々は此最後の哲學から出發せねばならぬ、肉体は元來醜なるものとは、我等の祖先が既に有したる大哲理ではないか。

○肉体は醜なるべきものとする、併し此世に於ては肉体なしには吾人も存在が出來ぬ。所謂生死の問題は肉体の問題だ。そこで美醜は兎に角、肉体の實用問題が起る、我々の肉体は果して尤も實用的であらうか、

西洋人のよりも、より多く實用的であらうか。

○此問題は容易に決すべきものでない、只だかういふ事だけは、僕は安心して云へると思ふ、實用上より云へば我々の肉体は決して西洋人のに劣るものでないと、併し優るものとは容易に云へぬ。

○彼等は温和なる氣候風土の國に生存する、然るに彼等は印度や南洋諸島の酷熱の地にも適應する肉体を有して居る、又加奈太の如き酷寒の地にも發展し得る。

○此凡ての氣候風土に適應し得るといふ事は、國民發展上極めて重大な特性である。我等も臺灣に於て滿州に於て此適應性を試験しつゝある、而して大抵試験に及第したらうと思ふと愉快に堪へぬ。がまだ中々安心は出來ぬやうな氣もする。

○それから彼等は早く老込まぬこと、努力の強い事等、肉体活動の積極的方面に於ては、どうも中々偉いやうに思はれる、これは彼等の人種的特長ではなくて、寧ろ平常修養の結果だらうと思ふ。

○凡そ英人の在る處は東西南北を問はず、何處でも運動場がある。英人の殖民地には先づ何よりも先に、芝地を掃へる。古倫母や新嘉坡のやうな醜熱の地で、野外運動に適せぬと思はれる地でも、必ず芝生があつて數百の英人が運動をやつて居る。六十七十の老翁が若者と伍して種々の球を投げて居る。

○これも兼ねてから聞いて居た事實であるが、實際を見ると、彼等が如何に肉体の實用方面の修養にも苦心しつゝあるかゞ分る。此八月に萬國醫學大會があつた時、福岡大學から來た久保博士の如きは、英國の衰へぬ所以は、實にここにあるのだらうと感心して居た。

○僕等は尤も運動をせぬ部に屬する人間だが、實際此處へ來て考へて見ると、日本人も、も少し運動といふ

事をするやうにせぬといけまいと切實に感ずる。今の大人は最早望みがないが、これからの諸君は大人になつて迄も、學校の運動を續けて行かれるやうにしたいと思ふ。

○尤も英國では、學生が餘の運動を仕過ぎて、學課が、佛獨の青年よりも後れて居るといふので、教育家の一部分には批難の聲もあるやうだ。併し僕のいふのは學生の運動でなくて、大人の運動である。

○但し肉体の消極的能力、即ち困苦欠乏に堪へるといふ素質に至つては、我々日本人は歐州人よりも優れて居るやうに思ふ。戦争がそれを証明して居る、我々は何處迄も此消極的ではあるが、併し最後の武器である此美質を永遠に保存したい。而して此頃の奢侈的、ハイカラ的傾向は此美質保存の敵たることを記憶して貰いたい。

○此頃の日本の文壇の一部には、生の充實と稱して、あらゆる人生の愉快を極めるを以て理想とする新傾向がある、彼等の云ふ處に由ると、日本人其他東洋人の生活は空虚な生活といふのだ。

○一日一夜も生の興ふる所のものを味はず樂まずに過すは、無意義な事だといふのだ。これも一面の眞理はある、我々は消極的の修養に苦心すること多く、積極的の修養に苦心することは少いといふ事實の半面に伴ふ弊害を瞥見したる点に於て。

○併し先年ラフカデラ、ハーンが龍南會雜誌上で、龍南の子弟に告げたやうに、まづい物を食つて、安價の生活をして、快樂を取らずに生活が出來るといふ消極的美質は、慥かに東洋人の恐ろしい人種である根本の理由である。

○之に反して何事も積極的である西洋人は、快樂なしには生活が出來ぬのである、所謂生が充實せぬと直ぐ

死んで仕舞ふのである、寧ろ空虚な生にも堪へ得るといふ消積的美質は最後の勝利者であらうと思ふ。

○いやこれは思はず六つかしい理窟に這入つた。之を解決するのは一日や二日の議論では出来ぬ事だ。西洋人の肉体觀はこれで中止する事にしやう。

○こんどは精神的方面である、詰り英人といふ人間は、どんな人間だといふ問題は太抵こゝに這入る、勿論僕の議論は學者の議論ではない、一村夫子の常識から得たる印象を有の儘に語るのである、村夫子に常識があるものかなどいふ、皮肉な評は此際御免蒙る。

○斷つて置くが、僕はこゝで英人の缺點を拾ふ積りではない。又英人の社會、道德、宗教等に關しては専門の研究を要するので、此等の研究は専門家に讓る。

○又此頃西洋人の暗黒面などの觀察がちらふら新聞や雑誌などに見ゆる。僕は又暗黒面を曝露することもしない。それは社會上家庭上などに、日本が決して模ねてはならぬ悪い方面のあることは事實だが、僕はそれ等の悪い方面を研究に來たのではない。

○英國が現今の如く、其大を爲した、根底に横はる美質を見て、それを幾分なりとも紹介することが出来ればよいのだ。僕は間諜でもなければ探偵でもない、臭い處ばかりを嗅ぎ廻る爲めに此處迄は來ない、英國とても其臭い處が原因で、今日の様に大きくなつたのではない。

○僕が早速感じたのを概括して云ふと、第一、英人の根氣強きこと、第二、鷹揚なること、第三、凡てが遠大なること、此三つである、以下これを説明する。

○凡ての渡英者がするやうに、僕も、第一に博物館見物をした。曰く大英博物館、曰く博物學博物館、曰く

く美術品博物館、曰く植物園曰く動物園、と云ふ風に。

○そして其結果英人の根氣の強いに驚かざるを得ない。世界中の人類が古今を通じて爲した事實、動植物等天然が爲した事實等を殆んど漏さず網羅して、そしてそれと組織的に排列して、一々説明を附してある。

○一口に云ふとそれまでが、金と時さへあれば出来る仕事だと云へば云へる。併し金と時とだけでそれが出来るだらうか。それは丁度金と時とがあれば誰でも大學者になれるといふのと同じ事ではあるまいか。

○そんなら智識があれば出来ること云ふかも知れぬ。併し僕にはどうも何よりも根氣が第一だと思はれぬ。僕も初めは蒐集したる事物の奇に驚いたが、次には之を整理し一々説明を附したる該博な智識に驚き最後に其根氣に尤も驚いた。

○そこで直ぐ日本の事を顧みた。日本にも處々に博物館や動物園がある。併し外國の事物はさて置き、日本の事物をさへ、一目瞭然たるやうに蒐集し整理したる處があるだらうか。例へば植物園である。日本特有の植物を蒐集するには餘り金も時も入らぬのである。然るにそれが無い、更に小さくすると、熊本なら熊本といふ處位には一つの植物園があつてもよい。

○そして九州だけの植物を蒐集して置いたら、何んなに便利だらう、その蒐集に幾何の金が入るものか、それが出来ない、いや日本人にはそんな事が尤も出来にくいのだ。詰りじみな仕事に長年月を費すといふ仕事、尤も我々の不得意な處ではあるまいか。

○一個人の園藝道樂でも其通りだ。葵が流行る、葵を植る。ダリアが流行る、ダリアを植る。併し葵なり、ダリアなりに數十年を費すといふ程の所謂「通」は滅多にない。これは一つは趣味の問題で一概には云へぬ

が、根氣の弱いと云ふ事が主なる原因ではあるまいか。

○文藝や思想の問題でも其通りだ。それジェームス、それベルグソン、それ自然主義、それ新ロマンチズム、それ享樂主義といふ風に長くも流行が五六年を出ない。

○新思想新主義の主張者は何れも年少者だ。然るにその本元たる歐洲では所謂新思想新主義の主張者は何れも老人だ。詰り若い時から主張し來つた主義なのだ。

○所謂日本の新しい女なども皆嫁入盛りのお嬢さんだが、英國のサフラジェットなどは皆な老婆さんである。これ等の事實はよく根氣の強弱を物語つて居ると思ふ。

○直ぐ飽きが來るといふ事は、詰り根氣の弱いのである。勿論其他にも原因があらう、併しそれが主要原因だと思ふ。根氣が弱くては逆も大博物館は出來ぬと思ふ、嘗に博物館動植物園のみならず、個人の蒐集事業でも、英國では凡て英人式に根氣強く往つて居る。

○此頃僕は當地のサウス、ケンシントン博物館の版畫部長のストレンジといふ人と知己になつたが、此人が日本の木版畫のオーソリチーで、昔からの錦繪に精通して居ること驚くばかりだ。勿論博物館には逆も日本で見られぬ程の古い珍畫を所藏して居る。

○此人は日本の錦繪に就て著書が幾つもある。此頃は更に一私人で錦繪を三千点も所藏して居る人の、其所藏品を博物館で借受て展覽會を開いて居るが、菱川師信以下北齋、廣重、頃迄の逸品が順序正しく排列してあるのには驚いた。

○これ等は金に積つても數萬圓のもので、勿論富豪でなければ所有する事は出來ぬが、其蒐集の仕方が、妄

りに金にあかして集めたといふ風ではない。智識と根氣とに依つて初めて成遂げらるべき風の集め方である。

○それから僕の日本語の弟子に四十才斗りの畫家兼本版家が居る。此人は日本の木版畫を研究して、之を西洋畫の印刷に應用せんと工夫して居るのであるが、此一畫家が日本畫を研究して居る、其熱心と根氣とには感心した。最早十數年從事して居るといふのだ、そして殆んど成効して居る。

○僕は此等の人を思ふ度に、僕もこんな根氣で沙翁でも研究したら今頃は沙翁通になるべき筈なのだが、それが出來ぬ、つく／＼耻かしいと思うて泣きたいやうに感ずる。

○恐らく英國が、あの印度を併せ、アフリカ、アメリカの諸殖民地と併せたのも、これと同じ筆法で併せたのだらう。金さへあれば何でも出來るといふが、其金を得る道も一に根氣ではあるまいか。

○第二に鷹揚と云ふ事になるが、これも心理學的に説明でもしたら、嘸ぞ六つかしい事であらう、併し僕の云ふのはこせつかない、と云ふ事だ、悠々として迫らざる態度である。

○此美質の標本は、乗合自動車、御者に於て見られる。比較的狭いロンドンの市街を、無數の自動車、電車、馬車等が織るが如く往來して居る中を、悠々として御して行く其手腕には、我々新來者が必ず驚嘆する。

○初めの數回は乗つて居るお客様の我々が、今衝突するか／＼と氣が氣でない、これはあと五六回も乗つたら神經衰弱にならうな／＼心配するのであるが、御者先生は何時も欣々として、悠揚迫らざる態度で御し
てゆく。

○決して遽てた事をせぬ、決して急がぬ、それで居て至つて早い、詰り遽てぬから早いのだ、一寸見た時は

ごうも御者先生餘り吞氣に見ゆる、少々神經が鈍いやうにさへ見られる、それで居て畢竟は機敏だ。

○英人は機を見るに機敏だといふ。實際さうらしい。併しそれは目から鼻へ抜ける的の機敏ではない。遽てぬから機敏なのだ精しくいふと機敏ではないのだ。只だ遽てぬから物が有の儘に見ゆるのだ。遽てると物が曲つて見ゆる、佛人のやうなのが機敏なのだ、英人は當り前に物を見る人間なのだ。

○英人の大はそれから來てる。昔し大石内藏助は若い時晝行燈といふ綽名があつたさうだ、それ程ぼんやりであつたといふ、それが仇討の時はあんな機敏な事をやつた。いや人目には機敏と見ゆる仕事をした。死んだ團十郎は若い時は大の大根であつたさうだ。それが晩年にはあんな名優になつた。これ等はたしかに英人式であらうと思う。

○一体日本でいふ所謂才子は此反對であるらしい。小事に當ると機敏だが、大事に當ると直ぐ物が曲つて見ゆる。だから曲直を誤る行動をする、平生薄ぼんやりが、大事に當つて大手柄をするのは、曲直を見誤らぬからだ、東郷大將などは其方だらうと推察する。

○英人は又少數の本國人を以て多數の野蠻人を御して行く。此八月にも、アフリカのソマリランドで七百人の土人から成る駱駝隊を、只だ八人の英國士官が統率して、内地に入込んで、蠻人の襲撃を受けたが、少數の死人を出しただけで、先づ隊を全うして還つたといふ事があつた。これは日本の新聞にも出て居た。○こんな事は世界中至る處でやつて居る。これなども、勇氣といふよりは此鷹揚の氣質が主原因だらうと思ふ。其他船を御する事なども英人が世界に冠たるは、これが原因に相違ないと思ふ。要するに御するといふ事は凡て此氣質が必要だ、何も機敏がつて、御さるべき物の欠点ばかりを探して居るには及ばぬ。まさ

かの時、其向ふ處の筋路をありのまゝに見る事が出来ればよいのである。

○餘り長談義は無用、第三の遠大といふ事に移る。詰り仕事但凡て遠大なのだ、百年の後千年の後を見越してやつて居る。

○凡て規模が遠大だ。新たに殖民地を作る、直ぐ立派な道路を作る、公園を作るといふ風だ。これは一つは歴史にも據らう、現に昔彼等の祖先が爲した事業が顯然として存して居るのが至る處にあるのだから、自然彼等自身も百年の後を考へる氣になる。

○建築にしても何百年前の物が目の前にあるとすれば、新たに建築を起す場合には、何百年の後を思ふ氣になる筈だ。併し一つは國民性であらう。田舎を旅して水道事業などを見る、其計畫の遠大なるには一驚を吃する。前に云つた博物館動植物園皆遠大な計畫から成つて居る。

○これは根氣の強いといふ事と密接の關係がある。一あつて他を欠く可からざるものだ。これも金さへあれば誰にも出来るやうに思ふが、金持必ずしも遠大の思想家ではない。

○一個人の動作にそれが矢張り現はれて居るやうだ。餘り眼前の事に頓着せぬ、所謂「間に合せ」をせぬ。

○又日本を省る。日本では能く「間に合ふ人間」といふ事を云。殊にた役所や會社や商店などで云ふ。彼奴は堅い男だが何分間に合はぬで困るなど。

○成る程間に合はぬのも困る。併し間に合ふ人間に成らうなどといふ事は決して青年の理想とすべきでない。晝行燈は間に合はぬものだ。併しいざと云ふ時、間に合ふ人間は往々晝行燈式だ。

○勿論力めて晝行燈を装ふなどは以ての外だ。只だ間に合せやう／＼と力むる結果は今日あるを知つて明日

あるを知らぬ短見者流となる恐れがある。少々晝行燈式でも遠大な方が宜い。

○何でも遠大でなければいかぬ。殊にこれからの日本人は遠大な計畫が必要だ、此人口過殖を如何する。朝鮮満州をどうする、米國をどうする、南洋をどうする、露國をどうする、支那をどうする、而して最後に今日世界に跋扈しつつある、此白人をどうする。

○諸君、我等此黄ろい皮膚を有する、短小な、見すばらしい日本人で西洋にあるものが、色々に感服したり慨嘆したりした最後に發する嘆聲は實に、此「白人を如何せん」である。

○畢竟僕が英人の美質に感服し之を忌憚なく諸君に示したのも徒らに英人を謳歌する餘ではない。否々これば云はずとも諸君が察して呉れる筈だ。

○我々は苟くも遠大の計畫を有する上は、徒らに現今の日本を以て一等國だなど満足して居てはいけない。我等よりも美質を有し我等よりも大なる事業をなす國民があるならば、虚心平氣で之を尊敬し、之を研究し、而して己れも其上に出るの覺悟が必要であらう。(完)

痴人の群に交りて愚かしう命の一日あだに過ぐしき

信綱

今日も亦憂なき子を装ひぬ儂なき事に笑ひなごして

柴舟